

しんたい 4 年計画 2024-2027 (第 4 期中期計画)



1. しんたいの基本的考え【コンセプト】と社会的使命【ミッション】



～「からだを育み、こころを育み、きずなを育む」研究と実践を地域(信州・東御)から発信する～

私たち「しんたい」は、保健・医療・福祉・介護・教育・スポーツ等の諸分野にまたがる調査研究・教育啓発・情報発信等の活動を地域で実践し、各活動に関連する幅広いネットワークを生かすことによって、だれもが「からだを育み、こころを育み、きずなを育み」ながら、地域で健やかに暮らし続けることができるための公共政策づくりに寄与します。

2. しんたいの行動指針【ビジョン】

しんたいは、「子どもの育ち」「健康づくり」「みんなのスポーツ」に関わる各領域を個別に捉えることなく、相互に関連づけながら研究と実践を進めていくことを強みとし、地域に密着した独自性のあるシンクタンクとして、核となる各種事業を展開していきます。またその活動により、公益法人として「SDGs (持続可能な開発目標)」の達成にも貢献します。

① 子どもたちの元気な育ちを応援

(教育・子育て領域)

子どもたちの“自ら元気に育つ力”を信じ、その力を引き出すことに深く関わります。

② 前向きになれる健康づくりを後押し

(保健・医療領域)

健康づくりを通して誰もが前向きに暮らすためのきっかけづくりを後押しします。

③ みんなのスポーツで地域を元気に

(福祉・スポーツ・まちづくり領域)

アスリートから愛好者まで、障がいの有無によらず皆が関われる多様なスポーツ環境の充実に貢献し、地域を元気にします。



3. しんたいの事業展開【アクション】

1) 第1期（2012～15）・第2期（2016～19）・第3期（2020～23）の総括

第1期（2012～15）、第2期（2016～19）の積み上げから、第3期（2020～23）では、「子どもの育ちを応援する（教育・子育て領域）」、「心身の健康を後押しする（保健・医療領域）」、「みんなのスポーツで地域を元気にする（福祉・スポーツ・まちづくり領域）」3つの行動指針と領域を掲げ、これらを相互に関連付けて研究と実践を進めてきました。

表1 中期計画：第1期（2012～15）・第2期（2016～19）・第3期（2020～23）の総括

	子どもの育ち	健康づくり	みんなのスポーツ
第1期	東御の子どもの元気な育ちを支える取り組み 里山探検事業（2012～） 専門保育士部会（2014～） 体力向上委員会（2016～）	市の健康保健・福祉（介護予防）施策への関わり 各種事業の検証（2012～） 健康とうみ二次（2013～） 地域包括ケア（2013～）	みんなの健康×スポーツ実行委員会の取り組み 高地トレ誘致推進（2014～） とうみユニバーサルスポーツクラブ立ち上げ（2015～）
第2期	①里山探検・外遊び活動充実への貢献（子どもの育ち×みんなのスポーツ） ②保幼小中からだを育む取り組みへの支援（子どもの育ち×心身の健康） ③生活習慣改善・心の健康づくりの啓発（心身の健康×子どもの育ち） ④地域包括ケアシステム充実への寄与（心身の健康） ⑤ソーシャルキャピタル醸成への関わり（心身の健康×みんなのスポーツ） ⑥ユニバーサルスポーツの普及（みんなのスポーツ×心身の健康） 里山探検事業・運動あそび専門保育士部会・体力向上推進委員会の継続・発展的な活動。世代交流型自然体験・介護予防プログラム開発（2016）他、地域の人材育成の推進。地域における健康づくり・介護予防のための身体活動・運動実施のための継続的な支援。健康とうみ21後期計画策定支援、小学校区単位の健康課題学習（2016～）他評価分析。ボッチャをはじめとした各種ユニバーサルスポーツ普及・定着への取り組み（2016～）。高地トレーニング拠点・プール施設整備推進及びプロモーションの取り組み（2016～）。		
第3期	第3期は第2期①～⑥をいずれも踏襲して取り組んできた。具体的な事業は以下の通り。 里山探検・運動あそび部会・体力向上委員会等への支援に関わる継続・発展的な活動。親子運動あそびガイドブック作成（2020）。体験格差解消のための水辺活動の充実と人材育成（2020～）。「里山探検のススメ」冊子作成（2021）。総合型SC活動支援（2022～）。認定スクールトレーナー制度創設に向けたモデル事業（2023～）。健康・医療・介護に関する東御市の課題分析と地域還元の継続。多世代向け健康づくり動画制作（2020）。高地環境での健康づくり効果検証（2020）。企業や大学等と連携した栄養や睡眠も含む健康関連分野の共同研究（2020～）。ハイブリッド型のつながり支援に資するアプリ開発（2020～）。健康リハビリテーション関連資料作成（2020～）。高地合宿利用者モニタリング（2020～）。ボッチャ運営・審判ガイドブック作成（2021）。新たなユニバーサルスポーツ種目の取り組み（2022～）。高地医科学サポート体制の構築に向けた検討（2022～）。ボッチャリーグ創設による持続可能な体制づくり（2023～）。		

2) 第4期の事業展開

第4期（2024～27）では、開所から25年間の歩みをふまえて、引き続き地域や社会から期待される役割を基盤に活動を継続しつつ、我々自身と社会全体のこれからの見据えて、次のキーワード視野に、公益財団法人としての主体的な活動を強化していきます。

これからのキーワード	協働・交流	誰もが	居場所づくり
EBPM	継続・継承	人づくり・次世代育成	プラネタリーヘルス
ほどよく…	フィジカルリテラシー	ライフコースアプローチ	
ライフパフォーマンス	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ		

表2 第4期中期計画の年度ごとの各活動の展開の見通し

		2024	2025	2026	2027
子どもたちの 元気な育ちを 応援	自然体験・外遊び活動 の環境充実を図る	●新たな活動拠点の環境整備 ☆自然体験活動等の効果検証		●持続可能な事業体制づくり ☆長期効果に関する研究発表	
	元気な心身を育む 取り組みを支える	●第三の居場所含む支援の検討 ☆育ちのデータベースづくり		●保小中地域の包括的な支援 ☆事業成果に関する研究発表	
	健康寿命延伸・健康 格差縮小に貢献する	●行動科学の最良知見を活用した行動変容・健康づくり支援の実践 ☆健康寿命延伸を目指した地域での継続的な取り組みの効果検証			
	地域包括ケア充実の 連携強化に寄与する	●地域の主体的な取り組みのサポート ☆2025年→2040年を見据えた地域包括ケア関連指標動向の検証	●多職種・多分野連携支援		
みんなの スポーツで 地域を 元気に	ユニバーサルスポーツ の機会を拡大する	●ユニバーサルスポーツの拡大 ☆普及に伴う様々な効果の探索		●機会拡大への広域的な貢献 ☆事業成果に関する研究発表	
	高地等スポーツ医科学 サポート体制を作る	●幅広いアスリートの競技力向上への貢献と健康づくりへの還元 ☆高地医科学サポート効果検証		☆事業成果に関する研究発表	

表内の記載の区分： ●地域での実践， ☆社会への発信

4. しんたいの運営体制【マネジメント】

1) 公益事業の三本柱

① 調査研究

身体教育医学に関する量的(疫学等)・質的(自然科学、人文・社会科学等)研究を行います。

② 教育啓発

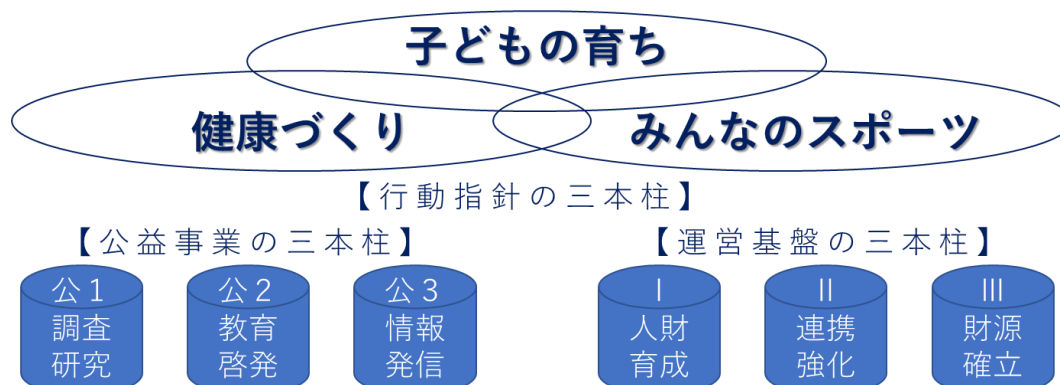
健康づくりに関する事業受託、講演会・教室への講師派遣、相談指導等を行います。

③ 情報発信

法人主催の研修会、出版物の発刊、収集文献の一般公開、WEB発信等を行います。



「からだを育み、こころを育み、みずなを育む」研究と実践を地域（信州・東御）から発信する



2) 運営基盤の三本柱

① 人財育成

専門性と総合性を兼ね備えた人財を確保し、外部との人事交流やインターンシップ受入等も行います。また「しんたい応援隊」等の住民組織づくりにも取り組みます。

② 連携強化

各関係機関との研究・実践両面の強固な連携を継続するとともに、その基盤となる社会的な信頼性を維持するために、法人内部のガバナンス強化を図ります。








③ 財源確立

自主財源の割合をより高めるために、自主事業の確立、研究費・モデル事業費等の獲得、応援寄附金制度の確立・活用等、ファンドレイジングの強化に努めます。

3) 持続可能な運営体制の検討

今後も引き続き地元地域や社会全体に対して、研究・実践の両面から貢献できる組織として活動が継続できるよう、持続可能な運営体制の将来見通しを検討します。

5. SDGs のゴール・ターゲットに貢献する しんたいの具体的取り組み

SDGs のゴール・ターゲット		しんたいの具体的取り組み
	3. d 健康危険因子の早期警告、緩和・管理能力を強化する	地域での健康寿命延伸・健康格差縮小に資する実践活動の中で取り組む。
	4. 7 教育を通して持続可能な開発に必要な知識・技能を得られるようにする	子どもたちとの運動あそびや自然体験を通じた健康増進活動の中で取り組む。
	5. 5 意思決定において、女性の参画と平等なリーダーシップの機会を確保する	長野県 SDGs 推進登録の重点的な取組に掲げた女性理事比率 30%を継続する。
	11. 7 緑地や公共スペースへのアクセスを提供する	運動・スポーツや自然体験の促進につながる環境整備を政策提言に盛り込む。
	15. 4 生物多様性を含む山地生態系を保全する	子ども・家庭・地域向けの自然体験活動の中で、山地生態系の保全に取り組む。
	16. 6 透明性の高い公共機関を発展させる 16. 7 適切な意思決定を確保する	公益財団法人の運営の中で、常に、高い透明性と適切な意思決定を確保する。
	17. 17 効果的な公的・官民・市民社会のパートナーシップを推進する	効果的なパートナーシップを活かして各種事業・法人運営等を展開していく。